

定年から8年経過した現在、建築、特にエネルギー・環境分野のビデオやパンフレットの制作業務を行っている。自分でも信じられない量であるが、ビデオ作品だけでも50本強に及んでいる。クライアントはエネルギー関連の会社、サブコン、メーカーや業界団体などである。現役時代にお世話になった会社もあれば、新たにお付き合いを始めた会社もある。

■なぜビデオ制作か？

61歳の定年を迎えるにあたって、設備設計の出身であったこともあり、省エネビジネスでも始めようかと考えていた。

そのような折、ある会社の役員の方から送別会をしていただくことになり、多数の人に声をかけていただいた。貴重な時間を割いて集まっていたのに、当たり前の挨拶だけでは申し訳なく思い、ずうずうしくも自分史をビデオにして見ていただくことを考えた。その上映が終わった後、当の役員の方から意外にも「ビデオ制作をビジネスにしたら」と言われたのがきっかけであった。

■そんなに旨く行くだろうか？

親の脛をかじっていた若いころから写真を趣味としていたので映像には自信があった。20年ほど前、欧州への視察ツアーに参加することとなり、事前説明会の場で、団長から「ビデオで記録してくれる人が居ないか？」との問いがあった。そのとき私一人が手をあげた。帰国後、なれない手で懸命に編集したビデオを皆に配ったことがきっかけで趣味の世界に入った。

アマチュアの私が、ビデオ制作をビジネスとすることは容易ではないのは十分承知していた。設備は一般の人に判りにくい分野で、設計時代から判りやすいプレゼを心がけていたのが幸いした。また、カメラやパソコンのめざましい発達も資金力のない私の背を押してくれた。ひと時代前であればカメラや編集機器は数千万円していたものが、その十分の一以下で準備できたのも運が良かったと言える。

■新たな勉強の始まり・・・60の手習い

ビデオ制作をビジネスとしたからには後に引けなかった。プロ用のカメラのテクニックはもちろん、ビデオ編集やアニメーションなどを実践しながら習熟してきた。これはいけるかもしれないと思ったのは、あるクライアントから「伊東にビデオを頼む

と楽だ」と言われたときであった。たとえば、空調機メーカーのソリューションビデオの制作において、一応専門的知識があるために、発注者はいちいち制作者に説明する必要がなく手間が省ける。逆にユーザーの立場に立って創ることで、クライアントが考える以上の仕上がりが可能となった。

通常、ビデオ制作にはシナリオ作り、撮影、編集の各プロセスでディレクターやカメラマンなど様々な人の手を経ることになる。私の制作では、ナレーション以外は全部自分で行うために、費用も期間も通常の半分以下であったこともクライアントに喜ばれた。

■ビデオ制作の派生効果

ハイビジョンカメラなどの機材は、技術のめざましい進歩によってかなりコンパクトになったとはいえ、業務用のそれはかなりの重量である。三脚を含めるとそれなりの体力を必要とする。建築現場に入って撮影するなど、より厳しい環境の時もある。そのために、スポーツジムに毎週2～3回通い、基礎体力をつけておくことは欠かせず、結果的に健康維持に役立っている。

また、ビデオにストーリー性を持たせるために、短編映画の監督になったつもりで編集するのも楽しい。クリエイティブな編集作業が頭のトレーニングにもなり、ボケ防止には良いと勝手に決め込んでいる。それにも増して、現役時代とは違った人々との出会いや、新しい経験は何よりも代えがたい貴重なものである。

■これからは少しでも社会貢献できれば

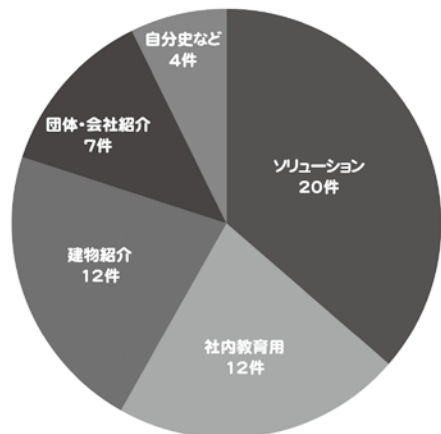
災害対策、エネルギーや環境問題など、今の日本は様々な課題に直面している。テレビなどでそれらの話題が頻繁に出るようになった。首をかしげる場面もあるが、私のような庶民は彼らと議論する機会を持ち合わせていない。しかし、ビデオというマスメディアがある。判りにくい技術をビジュアルに判りやすくする媒体として非常に効果があり、今後もより研鑽を続け、少しでも社会に貢献できるよう努力したいと思う。

私のビジネスは様々な人との出会いと貴重なアドバイスによって支えられたと言える。もちろん運が良かったこともあるが、自身の好奇心も少々手助けしてくれたかなと思っている。

映像技術の進歩と様々な素晴らしい人との出会いに感謝、感謝!!



雑然としたビデオ制作室



ビデオ作品の目的別件数